

授業科目 研究プロジェクト演習 VI

| | | | | |
|--------------------|------|----|------|----------------------------------|
| 【担当教員名】 佐藤 敏郎 他 | 対象学年 | 4 | 対象学科 | 理学・作業・言語・義肢・臨床・視機・健栄・スポ・社会・看護・情報 |
| | 開講時期 | 後期 | 必修選択 | 自由 |
| | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 |

| | | | | |
|------------------|-------|-------|----|-------|
| 【ディプロマポリシーとの関連性】 | | | | |
| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 |
| ○ | | ◎ | | |

【一般目標：GI0】
 (通称 UROP : The Undergraduate Research Opportunity Program)
 実際の教員の研究活動へ関わる機会を学部学生に提供する。教員との活動を通じて、研究者としての教員とのつながりを深め、学生自身の将来の進路や研究の対象などについて学ぶことができる。

【行動目標：SBO】

- 1) 実際の研究活動のステージ進行(研究プランの開発、研究計画書の作成、データの分析および口頭/文書での発表)を理解できる。
- 2) 自らのプロジェクトの実施に必要なとされる、実用的なスキルや知識を身につけることができる。
- 3) 自らのプロジェクトの結果について、口頭/文書で発表することができる。

| 回数 | 授業計画・学習の主題 | SBO 番号 | 学習方法・学習課題 備考・担当教員 |
|----|--|-----------|----------------------|
| | スケジュールは担当教員との協議によって柔軟に決められるが、週一度以上の定期的なミーティングを持つことが望ましい。 | | |

| 【使用図書】 | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格 他> |
|-------------------|------|-------|-------|------------|
| 教科書 (必ず購入する書籍) | | | | |
| 参考書 | | | | |
| その他の資料 | | | | |

【評価方法】
 UROP 参加期間中の学生の参加時間、積極性、自立性、および UROP プロジェクト発表会 (Appendix 1) での発表の 2 つを総合して A-D の 5 段階で評価する。
 % Appendix 1
 UROP を履修する学生は、指導教員の研究を補助すると同時に、自らの立案したプロジェクトを実施する。その成果について専門学会発表の形式にならない、履修期間の最後に公開方式で口頭で発表を行う。優秀なプロジェクトは新潟医療福祉学会での発表や学会誌への掲載が認められることがある。

【履修上の留意点】
 Note : 履修に関わる疑問の受付および回答等については専用の e-mail urop@nuhw.ac.jp を使用します。
 1) 各学期開始日の 3 週間前に UROP 募集が掲示される。学期開始日 1 週間前までに「プロジェクト計画書」を事務へ提出し、UROP 運営組織 (仮称 : Appendix 2) で審査を通過した学生が履修登録できる。
 a. 「プロジェクト計画書」には、UROP 参加により成し遂げたいゴール、プロジェクトのアイデア、およびおおまかなスケジュールが記載され、A4 一枚を超えない。(用紙はサーバーからダウンロード可)
 b. 「プロジェクト計画書」には、提出時にゼミ担当教員および UROP 指導教員の認証を示すサインがなければならない。
 2) GPA が 2.5 以上でなければ UROP への応募は認められない。
 3) 複数の連続した期をまたぐ継続した応募も認められることがあるが、「プロジェクト計画書」は期毎に提出する。
 4) UROP 終了時には「UROP 記録表」、「UROP 終了報告書」および「UROP 評価表」を事務へ提出する。
 a. 「UROP 記録表」には研究活動に携わった時間とその内容のメモが記録され、指導教員の確認サインを受ける。(用紙はダウンロード可能)
 b. 「UROP 終了報告書」は UROP 終了時に行われる「UROP 発表会」での資料をまとめたもので A45 枚を超えない。(用紙はダウンロード可能)
 c. 「UROP 評価票」は通常の授業評価と同様のものである。
 % Appendix 2
 複数学部の教員からなる運営主体で、UROP の周知および募集、UROP 参加教員の把握と、学生が応募時に提出する「プロジェクト計画書」の妥当性のチェックが主たる業務となる。さらに UROP 発表会の主催者となる。